



帝京大学小学校だより

2学期が始まります

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

例年とは異なる夏休みを過ごした子ども達が、学校に戻って来ます。私も帝京大学小学校での初めての夏休みでしたが、やはりどこか心が休まらない日々を過ごしていました。1学期の学校は、安全第一で感染防止に全力で取り組みました。8月に2回実施した学校説明会でも、学校が行っているコロナ対応に対して、高い評価をいただけことは大変ありがたいと思えました。しかし、子ども達の学校生活は制限だらけで、できないことが山ほどありました。特に、音楽の授業は鍵盤ハーモニカやリコーダーが行えない、歌が歌えないなど音楽科のもつ特性がほとんど味わえませんでした。また、体育の授業も身体接触がある運動領域が行えず、体づくり運動や陸上運動に限定されていました。また、休み時間はボールが使えず、遊び方も限られていました。

8月6日に文部科学省から「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」の改訂通知が発出されました。清掃が重視され、「学校生活の中で消毒によりウイルスをすべて死滅させることは困難であり、一時的な消毒の効果に期待するよりも、清掃により清潔な空間を保ち、健康的な生活により子どもの免疫力を高め、手洗いを徹底することの方が重要である。」としています。これは、最新の知見に基づいた改訂で、以下のことが示されました。

- ・床は通常の清掃活動の範囲で対応する。
- ・机・椅子の特別な消毒は不要、必要に応じて界面活性剤を用いて拭き掃除を行う。
- ・大勢がよく手を触れる場所は一日一回、消毒を行う。(界面活性剤を用いた拭き掃除で代替可能)
- ※特別な消毒作業は基本的に不要である。その上で消毒作業を実施する場合は外部人材を活用する。過度な消毒とならないように配慮する。
- ・「常時マスクを着用することが望ましい」から、「身体的距離が十分とれない場合には着用する」に変更。
- ・熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、気温・湿度や暑さ指数が高い日にはマスクを外す。(登下校時も同様)
- ・学校で感染者が発生した場合でも、臨時休業は濃厚接触者の特定や検査実施に必要な日数等で足り、現在は1～3日の臨時休校後の学校再開が一般的である。

学校ではこれを受けて、2学期からは安全に配慮しながら教育活動を「with コロナ」の観点から進めていきます。本校では、委託業者の方が細目に清掃をしており、清潔な空間が確保できています。また、各学級が20名程度という少人数で授業を行うことができるので、子どもたちの手洗いを徹底することや授業の実施方法を工夫することで、1学期には制限していた活動を段階的にできるように工夫していきます。また、休み時間の校庭や体育館の使い方や実施できる遊びを根本から変えていき、ボールも使えるようにしていきます。

今回のコロナ感染症は、今後の社会科の教科書にも記される、世界的な重大事項です。誰も経験したことがない事案に対して、「適正に恐れ」しかし「前向きに改善を図る」ことが大切だと考えます。大人から言われるからではなく、子どもたちも「では、自分たちはどうするのか」を学年の発達段階に合せて考え、生活する力が求められています。

学校では教職員が知恵を絞って考えていますが、もしかすると子どもたちの柔らかな頭で考えた方策の方が、よりよいものかもしれません。2学期は、クラブ活動や委員会活動も始まります。子どもたちと一緒に、よりよい2学期の教育活動を進めていきますので、保護者の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。